

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

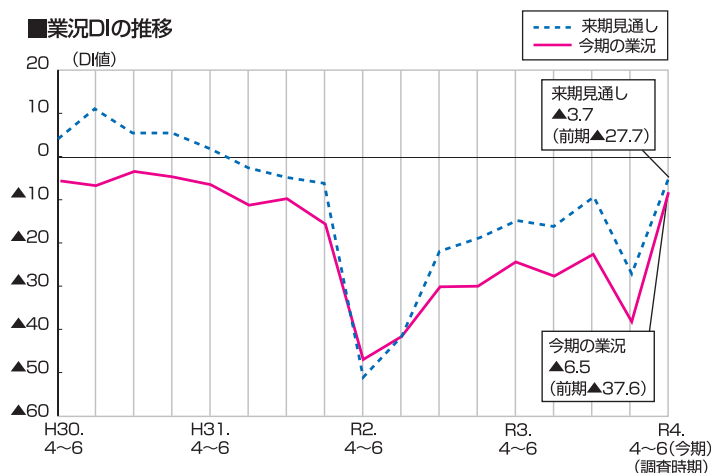
DI値	-25P以下	-25~-10P未満	-10~-10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↓	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↑

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 令和4年4～6月
回答企業数 143社

■業況DIの推移



業況は持ち直しの動き。

【今期(令和4年4～6月期)の業況】

全産業の業況DI値は、▲6・5
(前期比プラス31・1ポイント)と改善。コロナの影響が出る前(令和元年10～12月調査時・業況DI値▲9・9)の水準まで持ち直した。

【来期(令和4年7～9月期)の見通し】

全産業の来期見通しは、▲3・7
(前期時の来期見通し(▲27・7)と比較してプラス24・0ポイント)と改善。原材料等の価格高騰や世界情勢への不安など外部環境に懸念があるものの、回復に期待がみられる。

来期は外部環境に懸念があるものの回復に更なる期待

【今期の売上額・資金繰り・採算】

全産業の売上額DI値は、▲2・1
(前期比プラス38・1ポイント)と大きく上昇。全業種で大幅な改善がみられた。

全産業の資金繰りDI値は、▲5・7
(前期比プラス22・6ポイント)と改善。特に、製造業と建設業、小売業では改善がみられた。

全産業の採算DI値は、▲17・0
(前期比プラス23・8ポイント)と改善。特に卸売業では大幅な改善がみられた。

【回答企業のコメント】

・原材料等の仕入価格や電気、ガス等の経費の上昇を製品価格に転嫁できている大きな課題。利益確保に努めたい。(製造)

・商品ラインナップについて再検討を行い、更なる営業力強化に取り組むたい。(卸売)

・小規模ではあるもののイベント開催が復活しつつある。個別の引き合いも増えてきており、回復の兆しを感じる。(小売)

■産業別DI値表

		前期 [R4.1~3] (A)	今期 [R4.4~6] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [R4.7~9]
業況	全産業平均	▲37.6	▲6.5	31.1	▲3.7 →
	製造業	▲44.8	▲14.3	30.5	▲14.3 ↘
	建設業	▲33.3	▲16.0	17.3	0.0 →
	卸売業	▲25.0	0.0	25.0	11.1 ↗
	小売業	▲41.4	▲18.5	22.9	▲14.8 ↘
	サービス業	▲36.4	14.7	51.1	6.1 →
売上額	全産業平均	▲40.2	▲2.1	38.1	2.1 →
	製造業	▲43.3	▲16.7	26.6	0.0 →
	建設業	▲61.1	▲16.0	45.1	▲8.0 →
	卸売業	▲18.8	10.5	29.3	5.3 →
	小売業	▲50.0	▲3.6	46.4	▲7.4 →
	サービス業	▲27.3	17.1	44.4	17.1 ↗
資金繰り	全産業平均	▲28.3	▲5.7	22.6	▲5.7 →
	製造業	▲36.7	▲2.9	33.8	▲8.8 →
	建設業	▲38.9	▲16.0	22.9	▲12.0 ↘
	卸売業	0.0	0.0	0.0	5.3 →
	小売業	▲53.3	▲22.2	31.1	▲22.2 ↘
	サービス業	▲6.1	8.6	14.7	8.6 →
採算	全産業平均	▲40.8	▲17.0	23.8	▲12.2 ↘
	製造業	▲48.3	▲34.3	14.0	▲25.7 ↘
	建設業	▲50.0	▲41.7	8.3	▲26.1 ↘
	卸売業	▲25.0	21.1	46.1	10.5 ↗
	小売業	▲58.6	▲32.1	26.5	▲17.9 ↘
	サービス業	▲21.2	8.6	29.8	2.9 →